

## 心臓血管病の高リスク患者へのインフルエンザワクチン接種により 心臓血管イベントの発症が抑えられる

近年のインフルエンザ感染がアテローム血栓性イベントの発症と関係があるといわれている。そこで、インフルエンザワクチン接種が心臓血管病イベントの予防となるのかを検討した。

MEDLINE (1946 - 2013年8月)、EMBASE (1947 - 2013年8月)、コクランライブラリー対照研究登録簿 (開設時 - 2013年8月) から、心臓血管病のリスクが高い患者を対象にインフルエンザワクチン群とプラセボ群または対照群で比較し、心臓血管病への影響を報告した無作為臨床研究の文献を抽出し、統計学的に分析した。

出版された無作為臨床研究 5 件および出版されなかったもの 1 件から、6735 人の被験者 (平均年齢 67 歳 ; 女性 51.3% ; 心臓血管病の既往がある人 36.2% ; 平均追跡期間 7.9 カ月) を分析に用いた。出版された研究においては、インフルエンザワクチンは心臓血管病イベント発症のリスクを下げることに関係した (2.9% vs 4.7%; 相対比率 0.64)。急性冠症候群の既往がある場合 (相対比率 0.45) とない場合 (相対比率 0.94) で治療効果に違いがみられた。出版されていない文献のデータを加えても同様の結果となった。無作為臨床研究のメタ分析により、インフルエンザワクチン接種が心臓血管イベントの発症のリスクを低下することに関係することが示された。また、冠動脈疾患のある高リスク患者では、より効果が高かった。

出典 : Journal of the American Medical Association. 2013; 310: 1711-1720